

# 活動報告

沼田たか子の活動の一部をご紹介します

## 「ワタシのミライ」イベント・パレード 参加 9.18

代々木公園で行われた、再エネ100%と公正な社会をめざすイベントとパレードに、友人、生活者ネットワークの都議とともに参加しました。

## 10.11 在宅難病患者避難訓練 参加

在宅で人工呼吸器を使いながら生活している方が企画した避難訓練に参加。電気が使えない状況でどう避難するか、人工呼吸器や吸引のための電源はどう確保するか、水害の場合の広域避難はどうするかなど、医療・介護のチームで検討することができました。

## 10.24 葛飾区に予算要望を提出

葛飾区に予算要望を提出

## 10.26 児童発達支援事業所「ふたばこどもセンター」見学

児童発達支援事業所「ふたばこどもセンター」見学

## 10.28 住吉自治会防災訓練 参加

住吉自治会防災訓練 参加

## 11.8 環境審議会 傍聴

環境審議会 傍聴

## 11.13 認知症高齢者グループホーム 見学

認知症高齢者グループホーム 見学

## 11.16 葛飾小学校いじめ防止教室 授業参観

重いテーマではありますが、児童が自分ごととしてとらえられるよう、対話しながら進められる緒方美穂子さん(NPO法人レインボーリボン代表)の授業はとてもわかりやすく「児童を守る」という先生方の思いからこのような授業が実現していることは素晴らしいと感じました。

## 11.17-18 医療的ケア児のディズニーツアーにサポートメンバーとして参加

医療的ケア児のディズニーツアーにサポートメンバーとして参加

## 第3回定例会 報告会・学習会 11.5

議会活動報告会と学習会

「多様な家族の在り方を考える～我が家の里親子育てのお話～」を開催

養育里親・小児訪問看護師のますだなつみさんを講師に招き、虐待により失われた子どもの命のこと、里親の制度や養育里親として子どもを迎えた経緯、里親子育てを通して得た家族観についてお話をうかがいました。

お困りのこと、関心のある項目に○をつけてください。よろしければその内容や理由をあわせて教えてください。

### ❖ 医療・介護・福祉

内容：.....

### ❖ 子育て・教育

内容：.....

### ❖ 環境

内容：.....

### ❖ 人権・ジェンダー平等

内容：.....

### ❖ その他

ご意見、ご要望など自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

区政のことを聞きたい、  
くらしの中の困りごとを相談したい、などなど  
どなたでも気軽におこしください。

毎月10日は  
**なんでも相談会**

時間 10:00～12:00  
場所 葛飾・生活者ネットワーク事務所

令和6年 第1回葛飾区議会定例会 2.15 (水) 3.27 (水) (予定)

## 葛飾・生活者ネットワーク

議員は市民の代理人。  
生活者ネットワークは議員を代理人と呼び活動しています。

- 生活者ネットワーク 3つのルール**
- ❖ 議員は交代制、議員の特権化を防ぎます
  - ❖ 議員報酬は市民の政治活動資金に
  - ❖ 選挙はカンパとボランティアで

〒125-0054 葛飾区高砂 8-21-1  
TEL: 03-5876-4757 FAX: 03-5876-4758  
e-mail: katsushika@seikatsusha.net  
https://numata.seikatsusha.me



葛飾・生活者ネットワーク ぬまた 沼田たか子  
葛飾区議会議員 だれもが安心して暮らせるかつしかに

あなたに知ってもらいたい

## 区議会レポート

2024.1.11 発行 Vol.9

# 災害に備える

## 災害時の避難には「在宅避難」もあります

危機管理対策特別委員会において在宅避難ガイドの素案について報告がありました。『在宅避難』とは、災害時、自宅や周囲に危険がなく身の安全が確保でき、生活の継続に不安のない場合に、自宅を避難生活場所とする方法です。葛飾区では在宅避難時に備蓄が不足した際には、支援物資を避難所等で受け取ることができます。

これまで避難のあり方については避難所を中心に考えがちでしたが、東京都の被害想定では首都直下地震等による葛飾区の避難想定人数は約17万人で、その人数が避難所へ避難すると1か所に2,000人以上が押し寄せることとなり(区ホームページより)、避難所の数は十分とはいえませんが、プライバシーの確保や住み慣れた環境で過ごせることにより心身の健康を保ちやすくなるなどの点から、在宅避難も選択肢のひとつです。在宅避難については少しずつ認知度が上がってきていますが、2021年に民間事業者が1,000人を対象に行った調査によると、内容や必要な備蓄品について知っている人の割合は23.7%です。

区には、ガイドの概要を「わたしの便利帳」に盛り込む、冊子を全戸配布するなど、在宅避難について区民に広く知ってもらえるよう活用を求めました。また、障がい者・高齢者・難病患者・妊産婦・乳幼児・外国人など、支援を必要とする人の避難所での生活についても、当事者の視点で体制整備をすすめていくことを引き続き求めていきます。

### 避難所の収容人数には限界があります

葛飾区によると、最大17万人の避難者数が想定されている首都直下地震に対して区が指定している小中学校の避難所の収容人数は約8万5千人、都立・私立高校及び公共施設の避難所は長期収容の場合で約1万1千人です。避難者全員を区内の避難所でカバーすることは難しく、それぞれが可能な限りの在宅避難や縁故避難(安全な地域に住む親戚や友人宅への事前避難)を視野に入れて準備しておく必要があります。

### 在宅避難のための備え

- 住まいを安全に  
避難経路を確認し、ドアを塞いだり転倒の危険がある家具は移動。転倒防止器具で家具を固定するなどして室内の安全性を確保しましょう。
- 日用品はローリングストック  
水や食品、携帯トイレなどの必需品は7日分(少なくとも3日分)の備蓄を。普段使いの日用品や食品を多めに購入し、使った分だけ新しく買い足す循環型の備蓄方法なら無理なく続けられます。
- 日ごろからの家族との話し合いやご近所づきあいが災害時にも頼れる支えとなります。



このたびの令和6年能登半島地震と関連した事故により犠牲になられた方々に謹んでお悔やみを申し上げます。被災された皆様にお見舞いを申し上げますとともに皆様の生活が一日も早く平穏に復することを心よりお祈りいたします。

UD FONT 本文にユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

